

文・写真 松澤美穂

地方 紀民 行鉄

北陸鉄道株式会社



全国各地で鉄道イベントが開催される「鉄道の日」。
 ここ鶴来の町では、
 二つのイベントを同時に開催。
 電車も町も、大勢の人で賑わう。

JR西金沢駅に程近い北陸鉄道石川線の新西金沢駅は、時間帯によって無人駅になる。その静かな駅で一人電車を待つはずが、あれよあれよといううちに人が集まり、気づけばホームは人で一杯。子どもたちは、はしゃぎまわり、大人たちも笑いに世間話に花を咲かせる。一気に賑やかになった駅にカランカランと踏み切りの音が鳴り響くと、お待ちかねの鶴来行き電車がやって来る。

本日、電車は満員御礼

券売機のない無人の新西金沢駅からの乗車。乗車券は買っていないのに、車内では乗降証明書も発券していない。さて、どうやって精算するのかと、周りの様子を伺えば、財布を出した乗客が、車内を歩く車掌さんに合図を送っている。どうやら乗車券は自己申告制。乗車駅と降車駅を車掌さんに告げて、車内で乗車券を買ってもらう。ところが、石川線はほとんどが無人駅。電車が停車すれば、降りる人は車掌さんに乗車券を差し出し、乗り込んだ人は乗車券を求めて手を挙げる。石川線鶴来行きは、本日満員御礼。あちらこちらから手が差し出され、車掌さんは大忙し。

隙を見て、機会を見つけて、何とか車掌さん呼び止め、「新西金沢から鶴来まで」と申告。パチンパチンとはさみを入れられた乗車券は、乗車駅と降車駅、日付に丸い穴が開いた手のひらサイズの薄い紙片。初めて見るのになんとか懐かしい風情。

「〇〇から鶴来まで」。続々と続く自己申告

の乗車駅はさまざまだけど、降車駅は鶴来駅が圧倒的優勢。皆さん目指す所は一緒でしょうか？

鶴来の町に人が集まる

鶴来駅で扉が開くと、待ちかねたように乗客は一斉に改札に向かう。その改札の向こうには、乗車を待つ人の列。小さな駅の構内は瞬間行き交う人で埋め尽くされるが、目的地へ急ぐ人々は、あっという間に駅を出て行く。

さて、本日2013年10月13日の白山市鶴木では、二つのイベントが開催中。鶴来駅を出て右手に向かえば、鶴来本町通り商店街の「つるぎ」六六市2013ご当地グルメ大会、「左手に向かえば北陸鉄道の「2013ほくてつ電車まつり」だ。電車を降りた乗客の行き先は、小学校中学年くらいまでの子どもを連れた家族連れの6、7割が左手に、残りは右手に流れていく。

北陸鉄道の電車まつりは、以前は地元のお祭り「ほつらい祭り」と同日に開催していたが、現在では、数年前から始まったグルメ大会と日付を合わせて開催している。できるだけ多くの人に、鶴来の町に足を運んでもらいたいとの思いから、同日開催にしているが、「お昼時は、どうしてもグルメに行っちゃう人が多いですね」と北陸鉄道の南部さんは苦笑い。とはいえ、鶴来駅に隣接する電車まつりの会場も、ますますの人流。電車も駅も人で溢れているし、「鶴来の町に人を呼ぶ」、その目標は十分達成できているみたい。

乗車券は、乗降車駅と日付に穴を開けてもらう



降りるのも行列、乗るのも行列



北陸鉄道

【ほくりくてつどう】

内灘駅から北鉄金沢駅までを結ぶ12駅6.8kmの浅野川線と、野町駅から鶴来駅までを結ぶ16駅13.8kmの石川線の2路線を運行。2013年10月13日、創立70周年を迎えた。





機関車が動くと、大歓声上がる。記念品はミニタオルなど。持っているのは北陸鉄道の南部さん



運転席に座る順番待ちの小さな運転手さん

子どもに人気なのは綱引き体験

電車まつり会場は、北陸鉄道石川線の車両基地。当然、時刻になればそのすぐ脇を電車が通過していくが、線路と会場の仕切りがないため、社員が警備に付く。「普段は自由に入れない場所」な感じが、また楽しい。

さっそく停車中の電車に乗り込むと、北陸鉄道の写真が一面にずらり。今日この日、2013年10月13日に創立70周年を迎えた北陸鉄道の歴史の長さを、モノクロからカラーに変わっていく写真が表現する。人だかりのできた運転席では、運転手さんの制帽をかぶって得意げに笑う小さな運転手さんを、両親が写真に収める。運転席からの景色は魅力的だけれど、順番を待っているのは子どもばかり、行列に参加するのは恥ずかしい。ひとまず電車を降りると、「ねえ、綱引きはー」という子どもの声。「機関車綱引き体験」の看板の横、出番待ちの機関車を前に、小さな子どもが一人で綱を引いている。その後ろでは社員の方が「もう少し集まらないうと動かないからー」「駅で呼び込みしましょうか」と声を潜めて相談中。どうなることかと待っていると、コーワの人気キャラクター「ゲロちゃん」が、社員の「綱引き体験こちらです！」の呼び声とともに登場。聞けば民鉄協の地方民鉄応援プロジェクトで訪問中とか。ケロちゃん登場の効果か、続々と人が集まり、綱引きもいよいよ開始。20人ほどの子どもに数人の大人が加勢。子どもはももちろん、加勢の大人もどうやら本気で綱を引く。約31tの

機関車が、無事ゆっくりと動きだし、子どもたちの歓声を上げる。「重かった!」「動いた!」と叫ぶ子どもたちが参加の記念品が配られると、今度は記念品を片手に機関車前で撮影大会開始。一人で綱を引いていた子ども、ケロちゃんと写真を撮って、満足そう。

記念撮影で混雑する機関車周辺を避けて、70周年記念グッズの販売ブースやブルーシートに並んだ鉄道部品を眺める。こうした鉄道部品の販売が自当の鉄道ファンは、開始時間前から並んで待つという。果たして今年は何人が、掘り出し物を手に入れられたか。

イベント二つ、掛け持ち参加

会場を出て駅に戻り、そのまま駅を通過して右手に向かう。お昼を過ぎてお腹もすいた、近くでグルメのイベントもやっている。おまけにグルメのイベント会場では、石川線の鶴来-野町駅間の無料乗車券も配布しているというから、行かないわけにはいかない。

歩くことしばし。屋台の連なりが見えてきたと思ったら、食欲をそそる香りが押し寄せてくる。屋台を冷やかしながらふと見れば、電車まつりの会場でも見かけた家族連れの姿がチラホラ。クリームたつぷりのクレープにかぶりつく子の腕に下がったビニール袋には、綱引き参加の記念品が透けて見える。イベント二つを掛け持ちして、大満足のご様子。串焼き、やきそば、お団子、コロケ：あれも食べたい、これも食べたい。食欲の秋を満喫したら、帰りの電車はきつと熟睡。



「つるぎ一六大会 2013 ご当地グルメ大会」会場では、鶴来駅から野町駅までのキップが無料配布されている



販売ブースにも続々と人が集まる。鉄道用品の今年の売れ筋は方向幕

